

水田たより 7月号

令和4年7月1日

JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

水稻の生育概要

■ 気象概要 (アメダス桑名観測所の値、4月1日～6月22日)

過去10年の平均値と比較し、4月は気温が高く、降水量が少なかったです。5月は気温が同等、降水量が多かったです。6月は気温が同等、降水量が多く、日照時間が同等でした。

水稻の生育は順調に進んでおり、生育基準田の分けつは確保できています。草丈は昨年度より長めになっています。

<1か月予報>

6月25日～7月24日

名古屋地方気象台

令和4年6月23日発表

気温：高い

降水量：平年並または少ない

日照時間：多い

■ 出穂予測 (生育基準田調査より、幼穂長から出穂見込みを算出)

| 品 種 | 移植日 | 出穂見込み (前年比) |
|-------------|-------|--------------|
| あきたこまち (長島) | 4月13日 | 7月7日 (2日早い) |
| コシヒカリ (桑名) | 4月27日 | 7月21日 (2日早い) |

水稻の害虫 ニカメイチュウ

近年、作付時期の多様化や冬期の温暖化によって**虫害が発生しやすい環境**になっています。

管内において、**広範囲でニカメイチュウの発生**が確認されています。特に、山林や休耕田等の越冬場所が近いほ場で集中的に発生しています。

■ ニカメイチュウによる被害

ニカメイチュウの幼虫は、水稻の葉鞘や茎の内部を食害します。

| | |
|----------|--|
| 7月から9月まで | 6月に発生した幼虫が羽化し、成虫が発生します。成虫になるとすぐに、水稻へ産卵し始めます。 |
| 7月中旬以降 | 産卵から6～7日でふ化し、幼虫が発生します。幼虫は茎の内部を食害し、 出すくみ穂、白穂が発生 します。 |

■ 防除対策

① 薬剤防除

6月に葉鞘の黄変や心枯れがみられたほ場では、特に薬剤の散布を推奨します。

薬剤の**散布適期は7月中下旬**です。幼虫がふ化した直後の散布が効果的です。

カメムシやウンカ類にも効果がある薬剤を使用すると、**同時に防除**可能です。

(薬剤の詳細については、普及センター・JAにご相談ください！)



葉鞘の黄変、心枯れ(6月)

葉鞘の内部を食害する幼虫

② 次作の発生を予防

今作で発生があったほ場では、稲わらを早期にすき込み腐熟させて越冬源を減らしましょう！

カメムシの発生調査の実施

昨年一部の地域で甚大な被害をもたらしたイネカメムシをはじめ、多くのカメムシ類は移動性が高いため、適期に地域での一斉防除が効果的です。桑名普及センターではカメムシの発生動向を把握するため、6月下旬よりすくい取り調査を実施しています。

調査結果と、そこから推測される防除時期を、普及センターのホームページや公式ラインアカウントで配信するので防除の参考にしてください。



網で虫をすくい取る様子

大豆の除草と排水対策に中耕・培土を

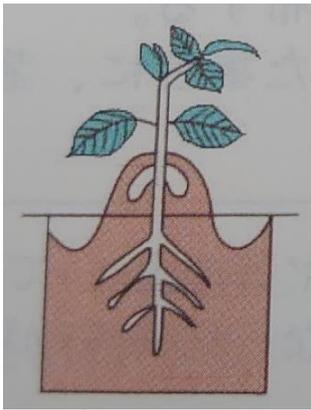
現在、大豆の播種適期を迎えています。播種後の中耕・培土は、開花までの大豆の生長に大きく影響を与えます。

得られるメリットは雑草防除、湿害防止、倒伏軽減、土壌の通気性改善などがあります。

1回目に行う土寄せを中耕といい、2回目を培土といいます。

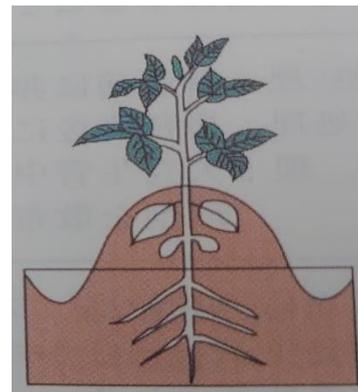
中耕・培土は下記に留意して行ってください。

1回目の中耕は本葉の3枚目が出るまでに子葉が隠れる高さで行う。



中耕適期

2回目は本葉の5枚目が出るまでに初生葉が隠れる高さで行う。



培土適期

出典：三重県大豆栽培技術マニュアル

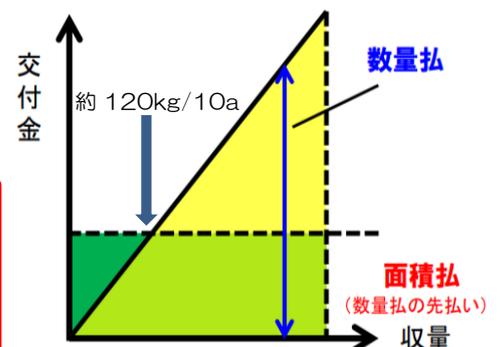
開花後に中耕・培土を行なうと大豆を傷めてしまうので必ず開花前に行ってください。最終的に培土の高さを 15cm 程度にとどめ、均一になるよう行ってください。

大豆の直接支払交付金について

大豆収入には生産物収入と直接支払交付金の二つがあります。

直接交付金は一定収量までは一律 20,000 円/10a の交付になりますが、約 120kg/10aを超えると、追加の数量払い（約 160 円/kg）を得ることができます。現在桑名管内の基準単収は、桑名市 109kg/10a、いなべ市 82kg/10a、東員町 56kg/10aとなっています。

【数量払と面積払との関係】



直接支払交付金は3年間地域の基準単収の 1/2 未満の収量の場合数量払いのみになってしまい面積払いの 20,000 円が交付されなくなります。収量確保のため、栽培管理を適切に行うことが重要になってきます。